



ウルメイワシ（太平洋系群）①

ウルメイワシは日本周辺に広く生息し、本系群はこのうち太平洋沿岸と瀬戸内海に分布する群である。

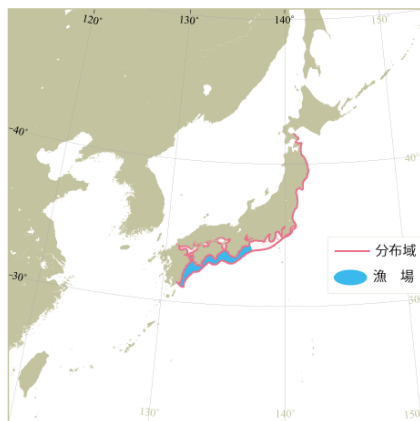


図1 分布域

分布・回遊範囲は沿岸域に集中する。

漁場の中心は日向灘～熊野灘の沿岸域である。

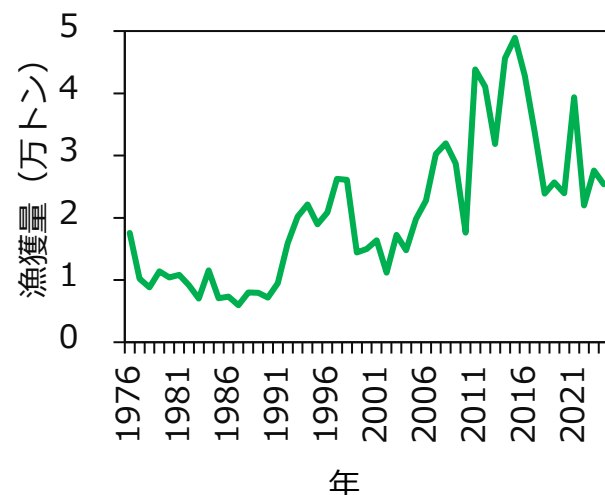


図2 漁獲量の推移

漁獲量は1990年代以降、変動しつつ増加傾向を示したが、2015年に4.9万トンと過去最高となった後、減少傾向に転じた。2024年は2023年よりも0.2万トン減少し、2.5万トンであった。

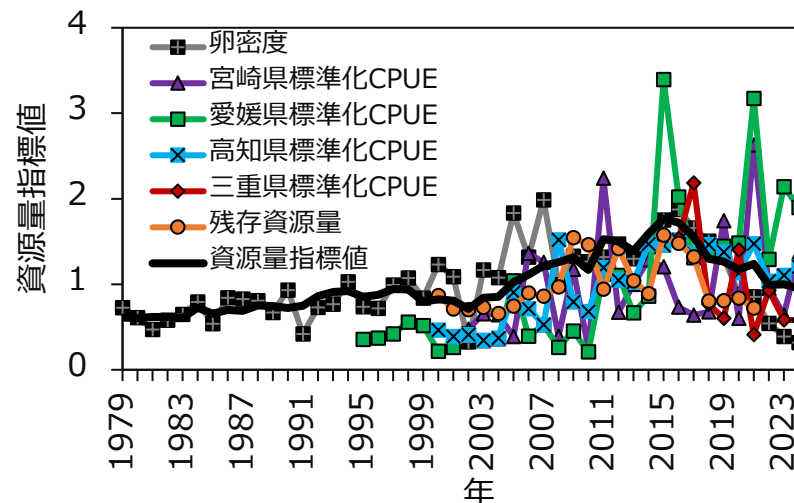


図3 資源量指標値の推移

漁獲量と標準化した卵密度、宮崎県・愛媛県・高知県・三重県における中・小型まき網の標準化した単位努力量当たりの漁獲量（標準化CPUE）、および過去のコホート解析から求めた残存資源量を基に、余剰生産モデルにより資源量相対値を推定し、資源量指標値として用いた。いずれの値も全期間の平均値が1になるよう規格化した。

資源量指標値は2016年以降減少傾向にあり、2024年は0.95であった。

ウルメイワシ（太平洋系群）②

本系群で使用可能なデータは漁獲量と資源量指標値である。したがって、「令和7（2025）年度 漁獲管理規則 およびABC算定の基本指針」の2系規則を適用する。また、基本的漁獲管理規則（基本規則）案に加え、漁獲量の変動を緩和する措置（変動緩和規則案）を適用した場合も示す。

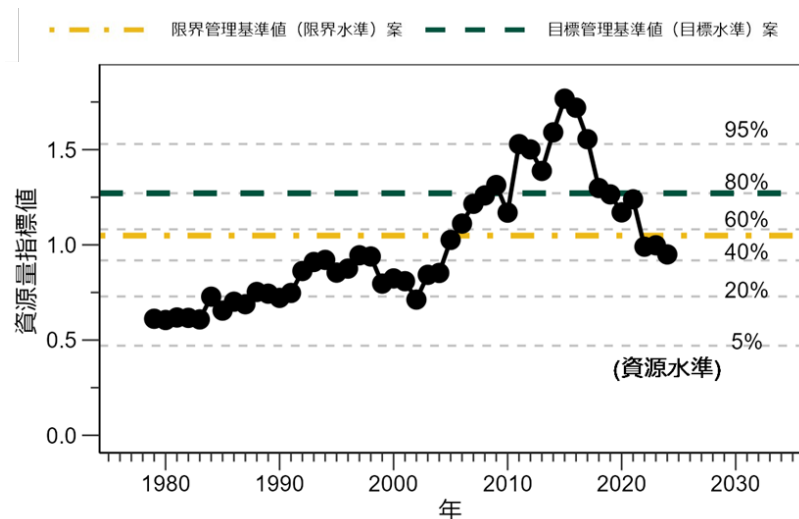


図4 資源水準および管理基準値案

余剰生産モデルで推定された資源量相対値を資源量指標値（黒線）とし、資源水準に基づいて、80%水準を目標管理基準値（緑線）、56%水準を限界管理基準値（黄線）として提案する。

2024年の資源量指標値（0.95）は43.8%水準に相当するため、限界管理基準値案を下回る。

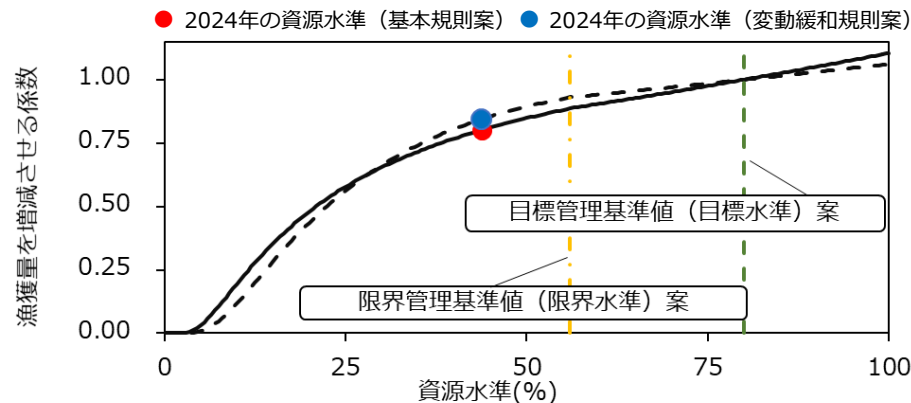


図5 漁獲管理規則案

資源水準に応じて漁獲量を増減させる係数を決める漁獲管理規則を提案する。黒線は基本規則案、黒破線は変動緩和規則案を適用した場合の係数の値を示す。資源水準が目標管理基準値案（緑線）を上回った場合は漁獲量を増やし、下回った場合は削減する。変動緩和規則案の場合、係数に基づき算出される算定漁獲量が最新年の漁獲量の140%（60%）を上回る（下回る）場合には、算定漁獲量を最新年の漁獲量の140%（60%）に置き換える。

現状（2024年）の資源水準（43.8%）における漁獲量を増減させる係数は、基本規則案で0.801（赤丸）、変動緩和規則案で0.844（青丸）である。

本資料では、管理基準値や漁獲管理規則など、資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）の議論をふまえて最終化される項目については、研究機関会議において提案された値を暫定的に示した。

ウルメイワシ（太平洋系群）③

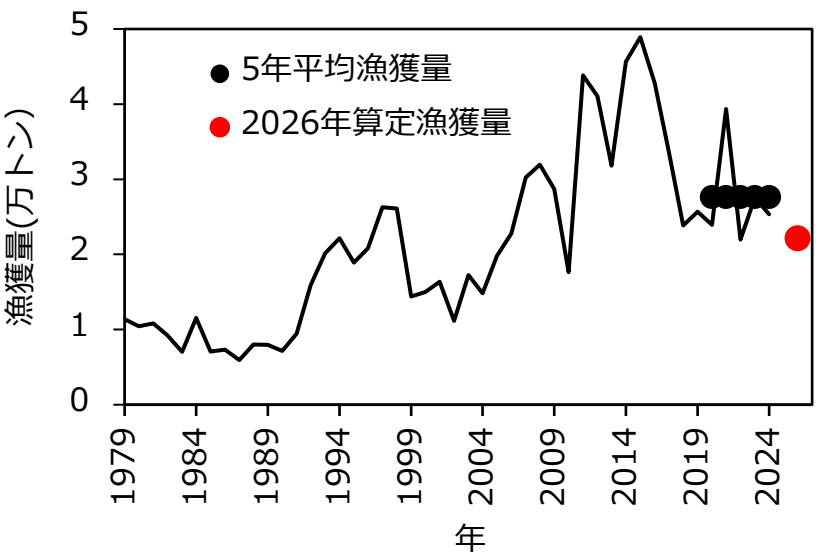


図6 漁獲量の推移と基本規則案に則った2026年の算定漁獲量

直近5年間（2020～2024年）の平均漁獲量（黒丸、2.8万トン）に、2024年の資源水準から求められる漁獲量を増減させる係数（0.801）を乗じて算出される2026年の算定漁獲量は2.2万トン（赤丸）となる。

	資源水準	漁獲量を増減させる係数	資源量指標値（平均値を1とする相対値）
目標管理基準値（目標水準）案	80.0%	1.000	1.27
限界管理基準値（限界水準）案	56.0%	0.887	1.05
現状の値（2024年）	43.8%	0.801	0.95
資源量指標値の推移から求めた資源水準と目標管理基準値案および限界管理基準値案の位置関係に基づき漁獲量を増減させる。 2024年の資源水準は43.8%であることから、2026年の算定漁獲量は2.2万トンと算出される。			

本資料では、管理基準値や漁獲管理規則など、資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）の議論をふまえて最終化される項目については、研究機関会議において提案された値を暫定的に示した。

ウルメイワシ（太平洋系群）④

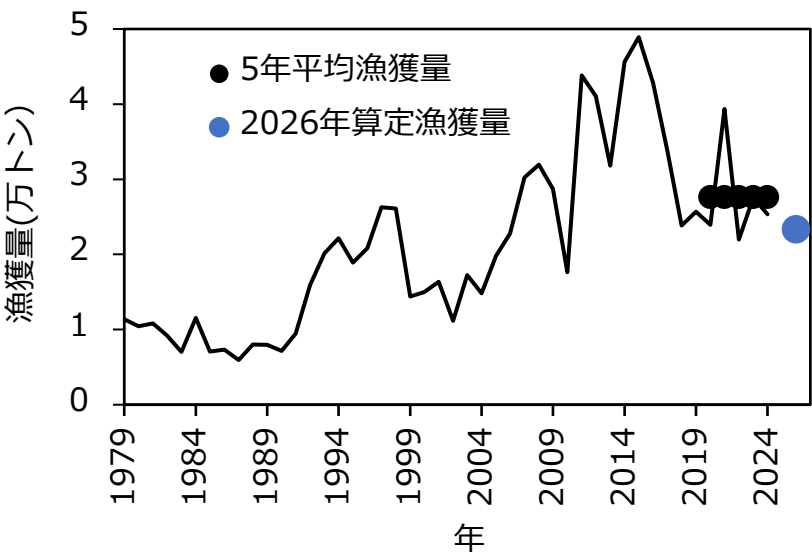


図7 漁獲量の推移と変動緩和規則案に則った2026年の算定漁獲量

直近5年間（2020～2024年）の平均漁獲量（黒丸、2.8万トン）に、2024年の資源水準から求められる漁獲量を増減させる係数（0.844）を乗じて算出される2026年の算定漁獲量は2.3万トンとなる。

この値は最新年（2024年）の漁獲量2.5万トンの60%（1.5万トン）を上回ることから、2026年の算定漁獲量は置き換わず、2.3万トン（青丸）となる。

	資源水準	漁獲量を増減させる係数	資源量指標値（平均値を1とする相対値）
目標管理基準値（目標水準）案	80.0%	1.000	1.27
限界管理基準値（限界水準）案	56.0%	0.931	1.05
現状の値（2024年）	43.8%	0.844	0.95
資源量指標値の推移から求めた資源水準と目標管理基準値案および限界管理基準値案の位置関係に基づき漁獲量を増減させるとともに、漁獲量の変動を緩和する措置をとる。 2026年の算定漁獲量は2024年の漁獲量の60%を上回るため、置き換わずに2.3万トンと算出される。			

本資料では、管理基準値や漁獲管理規則など、資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）の議論をふまえて最終化される項目については、研究機関会議において提案された値を暫定的に示した。